

金澤醫科大學大里内科教室

(主任大里教授)

體質ニ關スル研究

第二編 成人體型ニ就テ

助教授 日置陸奥夫

(昭和8年7月13日受附)

目 次

緒 言

第一節 肥満型、廣身型、狭身型ノ一般體型上ノ特徴

第二節 腦頭蓋及ヒ顔面頭蓋ニ關スル型的特徴

第三節 正常體型一般論

第四節 日本人正常體型ノ分布

第五節 體質研究上ノ今後ノ一般方針

文 獻

緒 言

體質ヲ知ルノ良キ Test トシテ 體型ガ擇バレタ 歴史ハ既ニ古イ。併シ古代醫家ガ卒中質 Habitus apoplecticus, 肺癆質 Habitus phthisicus ヲ考ヘタ如キハ多年ノ經驗カラ疾病素因 Krankheitsdisposition ナルモノヲ假定シ、(尤モ明確ニ疾病素因ト云フ言葉ヲ使用シテ體質ト疾病ニ關スル意義ヲ明カニシタモノハ Rosenbach ニ創マルト稱セラレルガ)之ト體型ヲ直接ニ結付ケタモノデアツテ確實ナ證明ヲ經タ所ノモノデハナカツタ。體質ハ性質デアツテ構造トハ直接同一物デハナイガ、恐ラク體質ト密接ナ關係ニアルグラウ所ノ身體内部ノ構造ト身體外形トヲ廣汎ナ實驗的研究ニ依ツテ論ジ、體質ニ第1型、第2型、第3型異常型ヲ分ツタノハ1878年獨ノ Benecke デアツタ。更ニ内分泌ニ關スル實驗的研究ガ勃興シテ、内分泌腺ノ異常ガ體型ヲ左右シ得ラレルコトガ明カニナルヤ、愈々體型ヲ體質分類ノ一要素トシテ棄テ難キモノトシタ。Biologie der Person 所載 Mac-Auliffe ノ作製シタ次ノ表ニ依ルモ如何ニ兩者ノ密接ナル關係ヲ承認セントシタモノガ古來多イカヲ分類ノ命名ガ物語ツテ居ル。而モ就中 Sigaud 一派ノ分類ハ如何ニモ巧妙ニ感得セラレ、今日尙此方法ニ依ツテ體質ノ分類ヲ試ミ、ソノ疾病素因、性格等々ニ關スル内容ヲ明カニセントスル者が頗ル多イ。ソノ如何ナル體質デアルカハ多クノ書ニ譯出サレテ居ル所デアツテ繰返シ説明スル迄モナイノデアルガ、ソノ體型ノミニ關スル部分ヲ Brugsch ノ書カラ譯出スレバ次ノ如クデアル。

1. 呼吸型. 呼吸器系ノ發達ヲ特徴トシ、夫ガ頭蓋、顔面ニモ表ハレテ居ル。胸廓ハ長ク、胃底角ハ銳角ヲナシ、第12肋骨尖ハ腸骨櫛ニ迄及ンデ居ル。鼻根カラ鼻底ニ至ル顔面中央部ノ發育強盛デ、鼻ハ大且幅廣ク、鼻稜ハ屈曲スル。顴骨弓間モ廣イ。從テ顔面ハ全體トシテ六角形ヲナシテ見エル。

分類者	年度	處	型			名
Haller	1750	瑞西	—	athlet. Typ	—	—
Hallé	1797	佛	thorak. Typ.	muskul. Typ.	abdomin. Typ.	kephaler Typ.
Cabanis	1801	佛	—	muskul. Typ.	—	nervöser Typ.
Thomas de Troisvéure	1821	佛	thorak. Typ.	—	abdomin. Typ.	kranial Typ.
Restan	1826	佛	resp. Typ.	muskul. Typ.	digestiv. Typ.	cerebral. Typ.
AdeGiovanni	1877	伊	I. Kombin.	II. Kombin.	III. Kombin.	—
Benecke	1878	獨	zweiter Typ.	normaler Typ.	erster Typ.	—
Virenius	1904	露	epthel. Typ.	muskul. Typ.	verbind.-Typ.	nervöser Typ.
Claude Sigaud	1908	佛	respir. Typ.	muskul. Typ.	digestiv. Typ.	cerebral. Typ.
Kretschmer	1923	獨	asthen. Typ.	athlet. Typ.	pykn. Typ.	—
Bryant	1913	米	carnivorer Typ.	normaler Typ.	herbivorer Typ.	—
Bounak		露	stenopl. Typ.	mesoplast. Typ.	euryplast. Typ.	subplast. Typ.

2. 消化型. 顔面下3分ノ1ノ發育ガ強盛デアル. 鼻底ト頤ノ間隔ガ特ニ大, 下顎弓ハ兩側ニ擴ツテ居ルノデ, 顔面ハ全體トシテ下顎ヲ底ナシ, 尖ヲ顛頂部ニ向ケタ三角塔ヲ形成シテ居ル. 頸ハ短ク, 胸廓ハ廣ク短イ. 腹部モ良ク發達シ, 膺ネ膨隆シテ居ル. 胃底角ハ每常鈍角ヲナシ, 臍ハ下位ニアル. 一般ニ脂肪太リヲシテ居ル.

3. 筋型. 短頭顛デアツテ調和ヲ示シタ四角ノ頭蓋ヲ有シテ居ル. 頭髮ノ生エ際ハ額ニ於テ直線的デアル. 軀幹ハヨク鈎合ガ取レテ居テ腹部ノ凸出スルコトモナイ. 胃底角ハ中等大, 肩ハ鈎上ツテ, 幅廣デアル. 筋肉, 臑ガクツキリ浮ンデ見ラレル.

4. 腦型. 細味ノ體型デ, ソノ割ニ頭蓋ガ非常ニ大キイ. 特ニ額ガ廣イノデ, 顔面全體トシテ, 尖端ヲ下ニ向ケタ三角塔ノ如クデアル. 耳殼ハ大, 四肢短ク, 足ガ小サイ. ソシテ此4型ノ間ニハ種々ノ移行型ガ認メラレル.

又 Kretschmer ハソノ著 Körperbau und Charakter ニ於テ, 正常體質ニ3型ヲ分ツタ. 纖弱型 leptosomer Typus, 力士型 athletischer Typus, 肥滿型 pyknischer Typus ガ夫デアルガ, 纖弱型ハ Sigaud ノ呼吸型ニ, 力士型ハ筋型ニ, 肥滿型ハソノ消化型ニ略々準ズルモノト觀ラレテ居ル.

斯クシテ佛蘭西學派殊ニ Sigaud ノ腦型, 呼吸型, 消化型, 筋型ト云フ分類法ハ解剖學的所見ニ直チニ機能的意義ヲ寓セシメテ眞ニ巧妙, 且之ヲ實地ニ照シテ斯ル體型ノモノヲ屢々見受ケル所デアルノダガ, ソノ後多クノ人ノ報告ニモ散見スル様ニ, 愈々全健康人體型ヲ此4分類ノ中ニ收メントスル時ニ種々移行型ト目スキモノヲ設ケザルヲ得ナクナル. 而モ此種ノ者ガ却ツテ純型ニ比シテ多クノ百分率ヲ占メル傾向ニ存スル. (Bauer ノ分類シタ第2表ヲ見ヨ.) 移行型ト云フモノガ到底否定シ得ラヌモノニハ相違ナイガ, 夫ニシテモ例ヘバ腦型ト稱スルモノ、如キ, 全體ノ極メテ稀ナル部分ニシカ屬シナイモノデアリ, 而モ屢々

第 2 表

型 名		例 數	百分率
呼 吸 型	純	365	18.2%
	不純	867	43.1%
筋 型	純	178	8.9%
	不純	478	23.8%
腦 型	純	79	3.9%
	不純	361	18.0%
消 化 型	純	77	3.8%
	不純	133	6.6%
無 名 型		171	8.5%

J. Bauer, D. A. f. Klin. Medizin 1918,
Bd. 126, 196.

全然認メラレナイナラバ、斯ル經驗的ノ四ツノ體型ノ純ナルモノ、ミガ全體ヨリ見テ極メテ特殊ナル體型ト見ラレテモ致シガナイノデアル。

加フルニ Sigaud ノ分類ニ止ラズ、此種ノ分類ハ凡ソ女子ニ適用スルコトハ至難トセラレテ居ル。發育ノ固定セザル幼年者ニ於テ不可能ナコトハ云フヲ俟タナイ。

要ハ健康人體型ナルモノハ、或種ノ見方カラ出發シテ全材料ヲ盡ク之ヲ包括スル様、便宜上ノ數種ニ分類セラレ、ソノ分類セラレタ各々ノ種ニ於テ、身體ノ他ノ部ニ特徴ガ求メラレルナラバ、ソノ分類方法ニ依ツテ定メラレタ體型ナルモノガ益々何等カノ特异性ヲ有スルニ至ルト云フ體ノモノデナクレバナラナイ。而モ凡ソ發育止リト目サレ、而モノノ後體型ニ依ル罹病率ノ差異カラ統計ヨリ洩ル、ヤモ測リ難イ比較的老年者ヲ除イタ全クノ壯年者ノミヲ選ンデ標準體型ヲ定ムル必要ガアルノデアル。

例ヘバ Sigaud ノ如キ從來ノ分類法ニ依ルモノハ之ヲ上記方法ニ依ルモノト比較對照シテ幸ニ一致ス可キモノヲ見出シタ時ニ始メテ正常體型ノ一トシテ採用セラル可キモノデアルコトガ知ラレ、然ラザレバ極メテ特殊ノ體型ト云フコトニナルデアラウ。又斯ル言葉ガ適切デナイナラバ、如上ノ見方カラ發足シテ從來ノ分類ヲ改メテ觀察シナクレバ、從來ノ夫等ヲ正常體型トシテ理由付ケルニハ不完全ナルコトヲ認メルモノデアル。

第一節 肥滿型、廣身型、狹身型ノ一般體型上ノ特徴

其處デ吾々ハ第1編成人體格ニ關スル報告中ニアゲラレタ諸數値ヲ基礎トシテ日本人成人體型ヲ論ゼントスルニ當ツテ、先ヅ主トシテ軀幹ヨリ見タ體型、即チ身體ノ長サニ對スル幅及ビ厚サノ關係カラ見タ體型ノ分類ヲ試ミ、更ニ此分類法ニ依ツテ身體ノ他ノ部ニ如何ナル特徴ガ認メラレルカヲ確定セントシタ。

體型ヲ數理的ニ處理シテ身長ニ對スル横幅、充實度ノ關係カラ分類ヲ試ミタ方ガ良イト云

腦水腫ノ如キ疾病ノ影響ヲ除外シ得ナイ恐レガ多分ニ存スル。尙此分類ハ軀幹ノ特徴ト頭蓋從テ顔面ノ特徴トノ間ニ直チニ密接ナ相關ノ關係ヲ最初カラ認定シ、ソノ假定ノ下ニ、更ニ内臟トノ關係ヲ尤モラシク關係セシメテ居ル。軀幹ノ特徴ト顔面ノ特徴トノ相關關係夫自身先ヅ檢討セラレナクテハナラナイ。古クカラノ學者ノ觀察の經驗ヲ遽カニ抹消スルト云フコトハ輕率ノ譏リヲ免レナイデアラウガ、尠ク共此相關關係ガ確定セラレ、限ラレタ特殊ノ體型デハナイト云フコトガ證據立テラレタ上デナクテハ、更ニ之ニ機能的意義ヲ寓セシメタ四ツノ正常體質等云フモノニ論ヲ進メルコトハ不可能デアル。相關關係ガ若シ

フ考ヘハ著者ニ始マツタコトデナク、既ニ Rautmann, Einhorn, Brugsch, Pignet-Vervaeck, Hauchmann 等ニ依ツテ種々研究セラレ、又提案セラレテ居ル所デアル。Sigaud ノ分類トテモ、ソノ條件ノ中ニハ明確ニ身長對横幅、乃至厚サノ關係ガ示サレテ居ナイガ、ソノ純型ノミヲ集メテ統計の數値ヲ得タ所デハ之ヲ Chaillou et Mc Auliffe ノ成績ニ見ルモ、(Weidenreich, Rasse und Körperbau, S. 19 参照)又 Kretschmer ノ成績ニ見ルモ、(Kretschmer, Körperbau und Charakter 照參)ソノ等シク云ハントスル所デアル。而シテ Weidenreich ハ Rhoden und Gründler ノ成績ヲ引用シテ Kretschmer ノ所謂纖弱型 asthenischer Typus ト肥滿型 pyknischer Typus トノ最モ大ナル相違ハ單ニ幅ニ就テバアルト明言シタ。

諸此 Chaillou, Mac Auliffe ノ實測表、並ニ Rohden und Gründler ノ實測表中ニ於テ Pignet-Index ナルモノモ注目スル時ハ此者が Sigaud ノ4型、Kretschmer ノ3型ニ就テ各々甚シイ價ノ相違ヲ示シテ居ルコトガ知ラレル。實ニ此 Pignet ノ指數コソ夥多存スル諸指數ノ中デ、體型ヲ表ハスニ最モ適切ナルモノデアルコトヲ夙ニ知ラレタモノデアツテ、之ニ關シテハ尙1929年ニ Hauchmann ガ Zeitschrift für Konstitutionslehre ニ一篇ノ論說ヲ掲ゲテ居ル。氏ノ掲グル所ノ體質指數ニ關スル見解ヲ列擧スルナラバ、第1ニ斯ル目的ニ添フ所ノ指數ハ、身體發育上ヨリ幅ト長サノ比例的關係ヲ以テ表ハサル可キモノデアル。第2ニ身長ト相關關係ヲ持ツコトヲ宥サレナイ。第3ニハ之ヲ定ムルニソノ測定種目ガ及的ニ少ク、且簡單ナルコトヲ欲スル。第4ニ實地材料ニ即シテ從來觀察セラレタ體質純型ト目サル可キモノニ就テ各々明瞭ナ數値ノ差異ノ存ス可キコトヲ要求スル。而シテ之等ノ要

第 3 表

Quetélét	$\frac{P \cdot 100}{L}$
Gould-Kaup	$\frac{O}{L^2}$
Rohrer	$\frac{P}{L^3}$
Brugsch	$\frac{T \cdot 100}{L}$
Pignet	$[L - (P+T)]$
Pignet Vervaeck	$\left[\frac{(P+T) \cdot 100}{L} \right]$
Pirquet	$\left[\frac{100^3 / 10P}{Si} \right]$
Martinet	$\frac{L}{Tr}$

P=體重 L=身長 T=胸圍 Si=坐高

求ニ對シテ第3表ニ示セルガ如キ諸家ノ指數ハ何レモ Pignet ノ夫ニ劣ルモノデアルコトガ檢討セラレテ居ル。然ル後 Hauchmann ハ形式的 Formular ニ Pignet-Vervaeck ノ式 $\frac{(P+T) \times 100}{L}$ ノ方が更ニ好マシク、而モ Pignet ノ夫ニ上述要求ヲ充ス上ニ優レタリトモ劣ラスコトヲ述ベテ居ル。

著者モ之等ノ諸點ノ大要ヲ首肯スルモノデアツテ、如斯キ觀察見地カラノ體型分類ニ當ツテ、先ヅ此式ヲ採用スルコトニ決意シタ次第デアル。

即チ先ヅ余等ノ材料ノ凡テニ於テ Pignet-Vervaeck ノ指數ヲ算出シタ。此指數、即チ長サニ對スル幅及ビ厚サノ關係カラノ分類ハ體型ヲ二ツノ極端型ト中央型ニ分タントスルモノデアツテ、此處ニ何レカラ何レ迄ヲ中間型トナス可キヤト云フ問題ガ生ジテクル。

Hauchmann ハ82—93ヲ以テ中央型、82—70迄ヲ纖弱型 asthenischer Typus、93—104ヲ以テ肥大型 hypersthenischer Typus トシテ採ランコトヲ提案シ、之ガ事實トモ亦極メテ良ク符節スルコトヲ述ベタ。此處ニ於テ余ハ吾々ノ例ニ於テモンノ事實ガ認メラレルカ如何カ

ト云フコトニ向ツテ次ニ検討ヲ進メタ。

先ヅ被檢例ガ此體質指數ニ就テモ大體ニ於テ正規度數分布ヲ示ス可キコトヲ假定シ、21歳—30歳ノ成年男子、18歳—20歳ノ成年女子ニ就テソノ諸統計値ヲ算出セル結果、次ノ成績ヲ得タ。

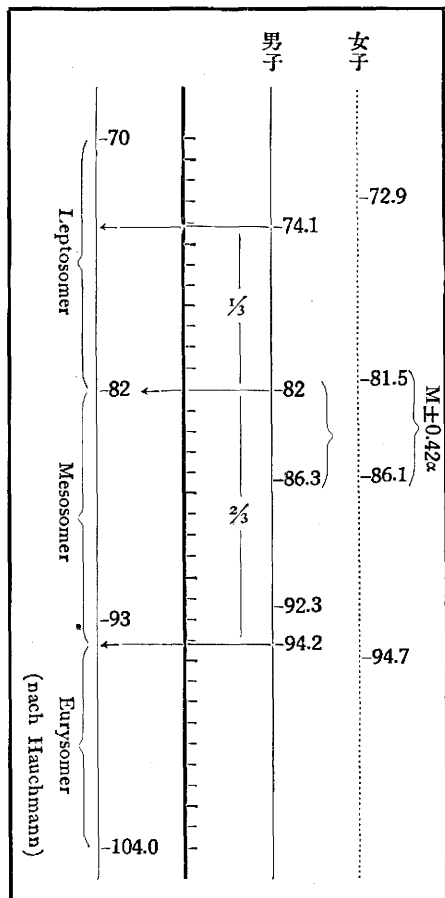
第 4 表 Pignet-Vervaeck 指數統計値

性	年 齡	例 數	中央値	算術平均±標準誤差	變 差 範 圍		
					極大	(變差)	極小
男	21—30	232	83.4	84.2±5.013	101	(28)	13
女	18—20	153	82.9	83.8±5.418	99	(27)	72
			$[M-2\sigma]-[M-0.42\sigma-0.1]$	$[M-0.42\sigma]-[M+0.42\sigma]$	$[M+0.42\sigma+0.1]-[M+2\sigma]$		
男			74.2—82.0	82.1—86.3	86.4—94.2		
女			72.9—81.4	81.5—86.1	86.2—94.7		

正規分布曲線ノ面積ニ於テ、全面積ヲトスレバ、 $M \pm 2\sigma$ ノ間ニ全例ノ95.46%ガ存シ、ソノ中央3分ノ1ハ $M \pm 0.42\sigma$ ノ間ニ存スルコトヲ分布曲線面積ノ表ニ依ツテ知り得ラレル。Martinハ而シテ此 $M \pm 2\sigma$ 範圍ヲ以テ生物學的ノ正常範圍ナリトシタ。今若シ之ニ從フナラバ、吾々ノ例ニ於テ、男子ハ74.1以下、94.3以上、女子ハ72.9以下、94.8以上ハ何レモ正常域ヲ脱シテ異常値ニ屬スル。ソコデ之ヲ事實ニ徴シタ所ガ、例ヘバ男子ニ於テ指數94.3以上ノモノハ全例232例中7例アツテ、中1例(第370號)ハ甚シク粗大ナ體格ヲ持ツコトガ知ラレ、他ノ6例(第137, 310, 346, 347, 349, 514號)ハ何レモ甚シイ肥滿者ナルコトガ知ラレタ。又指數74.1以下ノモノハ3例アツテ、第1例(371號)ハ甚ダ粗大ナ體格ノ所有主デアリ、第2例(第401號)及ビ第3例(第625號)ハ何レモ體軀矮小、羸瘦シ、扁平胸ノ持主デアルコトガ知ラレタ。

即チ Hauchmannハ82—70迄ヲ纖弱型トナシタガ、余等ハ男子デハ74、女子デハ73迄ノ所ヲ一般纖弱型トスルコトノ正シサヲ知ツタノデアアル。同様ニ論ズレバ男子デハ94、女子デハ95以上ハ一般正常體型ノ中ニ入レルコトハ出來ナイノデアアルガ、Hauchmannニ從ヘバソノ肥大型(hypersthenischer Typus)ト云フ中ニ充分包含セラレル所ノモノデアアル。而モ余等ノ例ニ於テ宛モ之等肥大型若クハ肥滿型ニ殆ンド變ラナイモノガ、94.1以上ノ部ニモ92.3以上94.3ノ部(Hauchmannニ依レバ93以上ヲ以テ肥大型トスル。)ニモ存シテ居テ、(3例、第446號、第470號、第599號)之等ノモノヲ同一部類ニ取扱フコトガ最モ適切ナ様ニ考ヘラレタ。(但シ、外ニ86.7ト云フモノデ肥滿者ガ1例發見セラレタ。)即チ、Hauchmannハ93ヲソノ境界トシタガ、余等ハ92.3ヲ寧ロソノ境界トシテ彼ノ所謂肥大型ヲ極少數ニ認ムルコトヲ得タノデアアル。而シテ Hauchmannガ中央型ト纖弱型ノ境界トシタ82ト云フ數値ハ宛モ余等ノ例ニ於テ全數ノ3分ノ1ヲ區劃スル點ニ當ツテ居ル。

第1圖表 Pignet-Vervaeck 指數頻度



言換ヘルナラバ、74以下ノモノハ特殊異常型ニ屬ス可キヲ以テ甚ダ注意ス可キデアル。74以上82迄ヲ纖弱型ト定メ、82以上92迄ヲ中央型、92以上ハ肥大型ニ屬セシムルコトガ出來ルガ94以上ノモノハ稀ニ特ニ肥滿ヲ認メナイ異常粗大型ガ居ルカモ知レナイカラ此點ニ注意ヲ要スル。而モ吾々日本人ニ於テハ全例ノ3分ノ1ガ略々纖弱型ニ屬シ、他ノ3分ノ2ガ中央型ニ屬スル。肥大型ナルモノハ極少數ノ部分ヲ占ムルニ過ギナイモノデアルト云フコトガ立證セラレタ。

(Hauchmannノhypersthenischer Typus肥大型ハスクシテ吾々日本人ニハ寧ロKretschmerノpyknischer Typusナル言葉ヲ踏襲シタ方が遙カ適切ニ考ヘラレルカラ今後此命名ヲ用フルコトニ約束スル。)

肥滿型ハ異常ナル肥滿ヲ以テ甚シキ特徴ヲ有スルモノ、次ニ中央型ト纖弱型ノ異同ヲ明カニス可ク、次ノ試ミヲ行ツタ。即チ男子ハ21歳ヨリ50歳ニ至ル全部ノモノニ於テ、女子ハ18歳ヨリ40歳ニ至ル全部ノモノニ於テ前記體質指數ニ依リ中央型、纖弱型ヲ分類シ、全

部ノ上記測定種目及ビ指數ニ渉ル統計値ノ比較ヲ行ツタ。而シテソノ中明カニ差異ヲ認め得タモノ、ミニ就テ、ソノ種目ト數値ヲ擧ゲタモノガ第5表デアル。

第 5 表

測定種目	體型 人員 性別	廣身型			狭身型		
		男 266		女 179	男 138		女 86
		中央値	算術±標準 平均±標準 誤差	平均誤差	中央算	値術±標準 平均±標準 誤差	平均誤差
體 重	男	51.8	53.6±5.10	0.31	45.1	43.5±3.59	0.31
	女	47.6	49.1±4.67	0.35	41.9	43.4±3.69	0.40
胸 圍	男	84.1	84.7±3.39	0.21	79.4	80.0±2.94	0.26
	女	79.2	79.5±2.76	0.20	74.3	74.8±2.73	0.30
胸部矢狀面徑	男	19.5	20.2±1.56	0.09	18.4	18.8±1.08	0.09
	女	18.6	18.9±1.22	0.09	17.5	17.8±1.11	0.12
胸 廓 巾	男	27.1	27.6±1.44	0.09	25.6	26.1±1.17	0.10
	女	25.7	26.3±1.25	0.09	24.3	24.9±1.16	0.16

臀 圍	男	70.5	71.7±5.17	0.32	65.2	66.1±4.20	0.36
	女	65.7	66.8±3.98	0.30	61.4	62.1±2.86	0.31
最 大 腰 巾	男	28.3	28.7±1.38	0.23	27.2	27.7±1.30	0.11
	女	28.6	29.1±1.45	0.11	27.6	28.1±1.23	0.13
腸 骨 櫛 間	男	26.0	26.2±1.35	0.08	24.7	24.7±1.36	0.12
	女	25.9	26.3±1.76	0.13	24.7	25.2±1.39	0.15
ア ク ロ ミ オ ン 巾	男	36.3	36.8±2.27	0.14	35.2	35.6±2.40	0.21
	女	34.1	34.9±1.71	0.13	33.5	33.9±1.42	0.15
頸 圍	男	34.3	34.8±1.55	0.09	32.5	33.1±1.87	0.16
伸 展 位 上 膊 圍	男	24.0	24.6±1.64	0.10	22.0	22.6±1.47	0.12
	女	24.3	24.8±1.54	0.11	22.6	23.3±1.43	0.15
屈 曲 位 上 膊 圍	男	26.9	27.5±1.91	0.12	24.7	25.2±1.72	0.12
	女	25.8	26.0±1.50	0.11	23.6	24.1±1.34	0.14
前 膊 最 大 圍	男	23.6	23.6±1.31	0.08	21.8	21.6±1.10	0.09
	女	21.9	22.4±1.08	0.08	20.7	21.2±1.03	0.11
前 膊 最 小 圍	男	15.6	16.2±1.01	0.06	14.6	15.3±1.05	0.09
	女	15.0	15.7±1.10	0.08	14.2	14.8±0.80	0.09
右 手 巾	男	9.80	9.93±0.47	0.03	9.50	9.53±0.38	0.03
	女	8.88	8.94±0.32	0.02	8.63	8.74±0.40	0.04
上 腿 最 大 圍	男	45.9	46.6±3.20	0.20	42.7	43.2±2.19	0.20
	女	47.1	47.4±3.83	0.29	44.5	45.1±2.92	0.32
下 腿 最 大 圍	男	33.3	33.9±2.66	0.16	31.4	32.0±2.60	0.22
	女	33.2	34.0±1.97	0.15	31.7	32.4±2.06	0.22
右 足 巾	男	9.26	9.44±0.531	0.034	8.97	9.08±0.486	0.042
	女	9.62	9.80±0.504	0.038	9.37	9.50±0.391	0.042
胸 圍 對 身 長	男	52.7	53.4±2.24	0.14	49.5	50.3±1.87	0.16
	女	53.0	53.5±2.25	0.17	49.6	50.2±2.18	0.24
胸 圍 對 軀 幹 長	男	168.4	170.8±13.28	0.80	158.0	159.8±13.27	1.13
	女	165.8	168.0±11.07	0.83	156.0	159.6±11.15	1.21
軀 幹 巾 指 數 I	男	1.97	1.98±0.093	0.0057	1.91	1.93±0.069	0.0059
	女	2.02	2.04±0.080	0.0060	1.95	1.97±0.075	0.0082
軀 幹 巾 指 數 II	男	2.05	2.06±0.093	0.0057	1.99	2.00±0.066	0.0056
	女	2.12	2.12±0.069	0.0051	2.05	2.06±0.068	0.0073
腰 巾 對 肩 巾	男	71.4	71.9±3.80	0.23	69.9	70.3±4.16	0.36
	女	75.1	76.9±4.92	0.37	74.0	75.0±4.20	0.46
上 膊 圍 對 上 膊 長	男	80.5	82.2±7.59	0.46	73.4	76.2±7.96	0.68
	女	84.7	87.4±8.79	0.66	77.8	80.6±8.58	0.94
上 腿 圍 對 上 腿 長	男	110.7	113.8±9.35	0.57	101.5	105.1±10.90	0.93
	女	119.8	121.9±12.71	0.95	114.3	117.4±10.52	1.14

顴骨弓巾	男	11.9	12.4±1.08	0.066	11.6	12.0±0.90	0.076
	女	10.6	11.4±1.49	0.11	10.4	10.9±1.19	0.13
鼻巾	男	35.3	3.61±0.289	0.018	3.31	3.49±0.243	0.021
	女	33.2	3.41±0.216	0.016	3.17	3.27±0.20	0.021
下顎巾	男	11.6	12.2±0.90	0.055	11.2	11.7±1.02	0.09
	女	11.1	11.5±0.82	0.061	10.6	11.2±0.68	0.074
下顎巾對身長	男	7.5	7.7±0.56	0.03	7.2	7.4±0.56	0.05
	女	7.5	7.7±0.54	0.04	7.2	7.4±0.53	0.06
頭部最大長	男	18.3	18.9±0.79	0.48	18.0	18.5±0.89	0.08
頭部最大長對身長	男	11.7	11.9±0.51	0.03	11.5	11.6±0.48	0.04

此結果ヲ綜合シテ兩體型ヲ比較考察スレバ、體重ニ於テ、又胸圍ニ於テ纖弱型ガ中央型ニ遙カ劣レルハ勿論、臀圍、「アクロミオン」幅、最大腰幅、腸骨楯間、上膊圍、前膊圍、上腿下腿最大圍、頸圍ニ於テ、而モ又胸圍對身長比、軀幹幅對身長比、上膊圍對上膊長比、上腿圍對上腿長比ニ於テ、纖弱型ハ中央型ニ比シテ明カニ小サナ値ヲ示シテ居ルノデ、之ヲ約言スレバ、凡テニ於テハ短ク太ク、他ハ細ク長ク見ユルノデアル。

(此處ニ於テ中央型、纖弱型ト云フ言葉ヲ使用センヨリハ Weidenreich ノ選擇シタ様ニ廣身型 Eurysome 狹長型 Leptosome ト云フ語ノ方ガ更ニ適切デアルカノ様ニ思ハレルノデ、今後ノ分類ニハ專ラ此名稱ヲ用フルコトヲ約束スル。) 尙頭蓋ニ於テモ亦平均値ノ明瞭ナル差異ヲ證明スル。即チ顔面頭蓋ニ於テ顴骨弓幅、鼻ノ幅、下顎幅、男子ニ於テハ特ニ頭ノ最大長ニ於テ Leptosome ハ Eurysome ヨリ遙カニ狹イコトヲ知ルノデアル。頭蓋ノ種々ナル特徴ニ就テハ次章ニ更ニ詳細ニ論ズルデアラウガ、要スルニ體型ノ長サ(身長)ノ幅及ビ厚サ(胸圍、體重)ニ對スル比カラ分類セントスル方法ハ、頭蓋ニモ適用セラレルノデアツテ、顴骨弓幅、鼻、下顎ノ幅ノ差異トシテ表ハレルノデアル。

(但シ、此區別ハ平均値ニ表ハレタ差異デアツタ、Leptosome ノ多クハ又ハ代表的ノモノハ、Eurysome ノ多クノモノ、又ハ代表的ノモノヨリ體重輕ク、胸圍ニ於テ小サク、ソノ他幅ニ於テ狹イコトヲ意味スルモノデアルコトヲ附記シナクテハナラナイ。種々移行型ノ存在スル關係上止ムヲ得ナイコトデアリ、又種々移行型ノ存在スルコトガ體質型ノ本來ノ面目デモアル。相互間ニ依リ判然タル區別ガアルナラバ、夫ハ既ニ體質型デハナク、寧ろ種族型ニ屬スルデアラウ。)

而モ以上ノ區別ハ、Bauer ガ Sigaud ノ分類法ヲ直チニ採ツテ女子ニ適用セントシテ果サナカッタ所ヲ補ヒ、女子ニ於テモ困難ナク用ヒラレル所ノモノデアル。

第二節 腦頭蓋及ビ顔面頭蓋ニ關スル型的特徴

Chailou und Mc Auliffe ノ佛蘭西人ニ關スル、又之ニ續イテ Kretschmer ノ獨逸人ニ關スル體型ノ分類ニ於テ、頭蓋ノ特徴、就中顔面頭蓋ノ特徴ハ體質型ヲ定ムル上ニ本質的要素デアルコトガ述べラレテ居ル。

余等ハ前章ニ於テ、日本人ヲソノ身長ニ對スル幅及ビ厚サノ關係カラ三ツノ體型ニ分ツテ考察シ、顔面頭蓋ニ就テハ顴骨弓幅、鼻ノ幅、下顎ノ幅ニ於テ夫々差異ヲ明カニシ得ルコトヲ知ツタ。

最近ニ於テ Rautmann 教授指導ノ下ニ Müller ノ報告セル所デモ、彼等ノ分類法ニ依ル體格ノ長サ對幅及ビ厚サノ關係ヨリスル3體型ニ於テ、ソノ頭圍、顔面ノ長サ、頭ノ幅、顴骨弓幅、鼻ノ幅ニ夫々體型的差異ガ認メ得ラレタ。併シ乍ラ之等數値上ノ頭蓋ニ於ケル特徴ト Sigaud, Chaillou et Mc Auliffe 及ビ Kretschmer ノ云ハントスル所ノ顔面ノ特徴トハ勿論同一物デハナイ。後者ノ擧ゲントスル顔面ノ全特徴ヲ統一シテ計測的ニ表ハスト云フコトハ元ヨリ至難デアアルガ、尠ク共ソノ有力ナル一部ノモノニ形態學的顔面指數ガ存スル。

余等ノ材料ニ於テ前表ニ形態學的顔面指數ノ項目ヲ擧ゲナカツタノハ、前記 Leptosomatiker, Eurysomatiker ノ各々ニ毫モ特有トナス可キ平均値ヲ得ルコトガ出來ナカツタカラデアツテ、Kolle Henckel, Gruhle ノ成績ト正ニ同様な結果ヲ得タノデアアル。

余等ハ又顔面頭蓋ヲ形態學的顔面指數ニ依ツテ Leptoprosop, Mesoprosop, Euryprosop ノ3ニ分チ、之ト腦頭蓋ノ幅對長サノ關係ヨリスル指數トノ關係ヲ求メテ見タガ、之モ陰性結果ニ終ツタ。畢竟、腦頭蓋ノ幅對長サノ指數ハ顔面ノ特徴ト何等相關關係ヲ有シナイノデアツテ、之モ Kollmann ノ得タ結果ト全ク等シイノデアアル。

Weidenreich ハ頭ノ幅對身長ノ比ガ Leptosomatiker, Eurysomatiker ノ夫々ニ於テ明確ナ差異ヲ有スルコト、即チ Leptosomatiker デハ小サク、Eurysomatiker デハ大デアアルコトヲ擧ゲテ此間ノ消息ヲ次ノ如ク説明シタ。

即チ、頭蓋ノ體型ニ依ル眞ノ特徴ハ頭ノ幅對身長ニ求ム可キデアツテ、Eurysomatiker デハ軀幹ノ幅ニ於テ、ヨリ發育ノ良キ傾向ニアルト同時ニ、頭蓋ニ於テ頭ノ幅ノ比較的増大ヲ特徴トスルモノデアアル。然ルニ獨リ形態學的顔面高ニ於テ最も自由ニ發育ノ變化ヲ來シ、此處ニ顔面頭蓋ニ於テ觀相學的ニ種々ナル型的差異ヲ見ルニ至ルモノデアアルト云フノデアアル。

余等ノ材料ニ於テハ頭ノ幅對身長ノ比ニ Leptosomatiker, Eurysomatiker ノ夫々ニ對スル差異ヲ明カニスルコトガ出來ナカツタガ、顴骨弓幅、鼻、下顎幅ニ於テ夫々特徴ヲ明カニスルコトヲ得タコトハ、基本體型ト云フモノヲ飽迄モソノ身長對幅及ビ厚サノ關係カラ分類スルコトノ有意義デアアルコトヲ矢張り思ハシムルモノデアアル。而モ形態學顔面高ガ總テノ測

第 6 表

種 目	偏差係數±確率誤差
形態學的顔面高	10.18±0.318
頭ノ巾	4.20±0.130
身長	3.56±0.108

定種目中(殊ニ同ジ縦ノ長サニ屬シ乍ラ身長ト比較シテ)最も大キナ變差係數ヲ有スルモノニ屬スル(第6表、第1編ヨリ拔萃)コトヲ見ルハ、形態的顔面高ノ比較的自由ニ發育變化ガ顔面ノ種々一律ナラザル觀相學的特徵ヲ現出セシメルト云フ Weidenreich ノ説明ヲ面白ク首肯セシメテ居ル。

第三節 正常體型一般論

正常體型ト稱セラル、モノ、中ニ二様ノ解釋ガ行ハレ、今日ノ進歩セル研究方法モ大體ニ

ソノ方向ニ岐レテ居ル。ソノ第1ハ彼 Rautmann, Hauptmann ニ見ルガ如キ行キ方デアツテ、統計上ヨリ見テ最も普通ニ屬スル中庸ノ人間、平均シタ人間ヲ數値上カラ選ミ出シ、ソノ他ノモノ即チ異常體型ニ對シテ之ヲ正常體型ト呼バントスルモノデアル。Rautmann ハ身體ノ解剖學的計測並ニ體重ヲ基礎トシテ此所謂正常人間ナルモノヲ定メントシ、Hauptmann ハ更ニ進ンデ1, 2機能的方面カラ(例ヘバ血壓)モ最も普通ナル數値ヲ算出シ、之ヲ前者ニ組合シテ正常體質型ヲ得ントシタ。方法ハ稍々異ルガ保險醫學ニ於ケル體質ノ分類法ガ此行キ方デアル。例ヘバ胸圍ト腹圍、體重ヨリスル或種ノ指數ニ依ツテ正常型ヲ定メ、夫以外ノモノニ於テ或ハ肥滿體、或ハ狹長體質ヲ定メントスルガ如キデアル。(本邦ニ於テハ圓治、高田等)

之ニ反シテ他ノ一ツノ解釋ハ斯ル意味ニ於ケル標準體ト云フモノヲ知ラウトハシナイ。健康體中特殊ナモノニ非ザル限り皆正常型ノ中デアル。正常型中ニ色々身體ノ鈞合ヒノ上カラ數種ノ便宜上ノ體質型ヲ分チ得ベシト信ズルモノデアル。兩者結果ニ於テ或ハ左程ノ相違ヲ來サナイカモ知レナイ。曩キニ余等ノ採ツタ方法ニ於テ廣身型ニ屬シタモノガ、所謂平均セル人間ト云フ部類ニ大體ハ一致スルカモ知レナイ。併シ乍ラ意義カラ云ツテ平均セル人間等云フモノハ甚シク抽象的架空のナ存在デアリ、加フルニ之ニ機能的因子ヲ多ク加味スレバスル程正常體型ノ範圍ハ狹メラレル。ソノ應用ニ於テ、正常體質ガ主眼トモナル可キ保險醫學ニ於テハ、或ハソノ方ガ方法トシテ賢明ナ分類方法カモ知ラレナイ。併シ余等ノ終局ノ目的ハ實際醫學ニ於テ成ク可ク治療のニ良ク影響セシメンガ爲ニ、數種ト云ハズ、能フ可クンバ人間ノ全基質ヲ理解セントスルニアルノデ、標準體型ノミナ規定シ様ト努ムル如上ノ方法ハ採ラウトスル所デハナイ。

即チ余等ガ正常人體型ヲ分類セントスルニ際シテ之ヲ縦ノ成長ニ對スル之ニ垂直ナ面ノ成長關係カラ、別ニ抽象的ナ標準體型ナルモノヲ定ムルコトナシニ、一般ニ廣身型、狹身型ニ分チ、更ニ脂肪褥ノ發育ノ特ニ著シイ肥滿型ヲ認メタ點ハ正ニ此要求ニ適シテ居ルモノデアル。

第四節 日本人ノ正常體型ノ分布

體質指數カラ觀レバ、吾日本人體型ノ凡ソ3分ノ1ガ狹身型 leptosomer Typus ニ屬シ、他ノ3分ノ2ガ廣身型 eurysumer Typus ニ屬スルコトハ第1圖表ニ依ツテ明カナ事實デアリ、曩キニ述ベタ所デアル。

全體ノ例ニ於テソノ體質指數ニ關シテ $M \pm 2a$ 以外ニアルモノハ極メテ少數ナル可キ筈デアリ、ソノ點之等ハ異常型トモ云フ可キモノデアルカモ知レナイ。吾々ノ例ニ(男子21—30歳232名)ニ於テソノ下ノ境界、即チ體質指數74以下ノモノ3例ヲ算シタガ、ソノ何レモガ或ハ極メテ矮小デアリ、或ハ極メテ粗大ナル體格ノ所有者デアツテ之ヲ異常型ト認ムルコトニ異論ハナカッタ。併シ乍ラソノ上ノ境界、即チ體質指數94以上ノモノニハ特ニ他ニ發育異常ガ存スルトモ認メラレナイデ著シク肥滿シテ居ルモノガ屢々存スルコトヲ知ツタ。否之等肥滿型ハ體質指數94以下 92.3 以上ノモノニモ認メラレタノデアツテ之等ハ決シテ異常體型ト

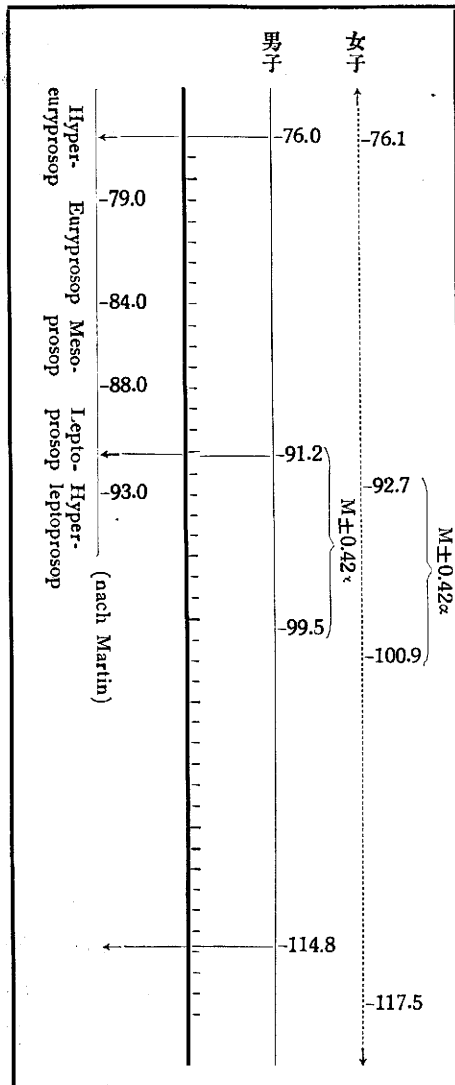
ノミ 除外ス 可キデハアルマイ。之等ハ Hauchmann = 從ヘバ hypersthenischer Typus, Kretschmer = 從ヘバ pyknischer Typus ト呼稱ス可キモノデアツテ明カニ1型トシテ認ム可キモノデアル。

今體質指數 92.3 以上ノモノヲ男子21—30歳232名中ニ求ムルニ11例ヲ算シ、肥滿型10例ヲ認メタ。肥滿型ハ全例ノ 4.74%ニ屬スル。即チ數カラ云ヘバ甚ダ少イ部分デアル。

肥滿型以外ノ1例ト云フノハ甚ダ粗大ナ體格ノ所有者デアツタ。元々體質指數94以上ノモノハ數カラ云ツテモ必ズヤ異常型ニ屬セシムルモ差支ヘナイモノデアルカラシテ、身長、骨格ヲ同時ニ參照シテ周到ナ注意ヲ必要トスルモノデアル。

第 2 圖表

形態學的顔面指數頻度ヲ示ス圖表



之ヲ要スルニ日本人基本體型ニ於テハ肥滿型ガ極少ク、廣身型ヘノ偏向ガ認メラレル。

次ニ日本人顔面ノ特徴ヲ求ムルニ、顔面頭蓋ノ形態學的顔面指數ハ何レモ甚シク leptoprosoper Typus ニ偏向シテ居ルコトヲ第2圖表ニ依ツテ示シ得ル。

古來稱セラレル所ノ Habitus apoplecticus, Stiller ノ所謂 Habitus asthenicus ガ多年ノ經驗、觀察ニ依リテ唱ヘラレタモノデアル以上余等モ亦將來ニ於テ充分ノ顧慮ヲ拂フ可キモノデアル。ソノ云ハントスル所ノ特徴ハ可成リ精細デアツテ、元ヨリ簡單ニ數字ヲ以テ示スコトハ不可能デアルガ、或ハ形態的顔面指數ト上述3基本體型トノ組合セニ依ツテ略々ソノ外廓ヲ縁取ルコトガ出來ルノデハナカラウカ。(例ヘバ Habitus apoplecticus = Eurysumer mit Euryprosopie, Habitus asthenicus = Leptosomer mit Leptoprosopie ノ如ク) 此處ニ於テ余ハ基本體型ト顔面指數ノ組合セニ興味ヲ覺エテ之ヲ考察セントシタ。

今顔面ノ3特徴 Leptoprosopie, Mesoprosopie, Euryrosopie ト基本3體型 pyknischer Typus, Eurysome, Leptosome トヲ組合セルナラバ次ノ9體型ヲ生ズル道理デアル。

此9型ノ中普通ニ考ヘテ、ソノ最も極端ナルモノハ下ニ線ヲ附セル四ツノモノデアル。

Pykniker mit	{ Euryprosopie Mesoprosopie Leptoprosopie	而モ全例中 Pykniker ハ甚シク稀デアリ、顔面著シク Leptoprosopie ニ偏向シテ居ルノデ、Pykniker mit Euryprosopie ナルモノハ最モ尠カル可ク、ソノ次ニ
Eurysomatiker mit	{ Euryprosopie Mesoprosopie Leptoprosopie	Pykniker mit Leptoprosopie ガ位スルデアラウ。事實 男子232例中前者2例、後者ハ Mesoprosopie モ併セ
Leptosomatiker mit	{ Euryprosopie Mesoprosopie Leptoprosopie	テ8例ヲ得タニ過ギナイ。併シ乍ラ、Pykniker デハ 例ヘ Euryprosopie タルモ Leptoprosopie タルモ恐ラ

ク同一視シテ良イデハナイカト考ヘラレル。

次ニ恐ラク尠カル可キハ Leptosome mit Euryprosopie デアラウ。事實ニ徴スルナラバ男子232例中10例ヲ算スルニ過ギナカッタ。四ツノ極端型中殘ル1型 Leptosome mit Leptoprosopie (恐ラク Habitus asthenicus ニ該當センカ)、ハ併シ型ノ偏向ノ關係カラ事實數ノ上カラ云ツテモ餘リ極端デハナイ。又 Eurysome mit Euryprosopie (恐ラク Habitus apoplecticus ニ該當センカ)モ Euryprosopie ハ一體ニ尠イノデアアルガ、Eurysome ガ比較的多イ爲ニ尠イ Euryprosopie ノ大部分ヲ占メ、全體トシテ相當ノ數ヲ有スルコトガ知ラレタ。(232例中28例)

結局日本人體型中最モ普通ナル體型ハ基本體型ト形態學的顔面指數ノ組合セノ上ニ於テ次ノ5型ニ屬シ、他ハ何レモ比較的尠イ例ニ屬スルモノデアアルコトガ明カデアアル。

Eurysomatiker imt	{ Euryprosopie Mesoprosopie Leptoprosopie	尙 Baelz 氏ハ吾日本ニアルヤ、夙ニソノ體質型ニ 注意ヲ拂ヒ、顔面迅クモ之ヲ長州型ト薩摩型トニ分ツ コトノ適切ナルヲ述ベタガ、長州型トハ Leptosoma-
Leptosomatiker mit	{ Mesoprosopie Leptoprosopie	tiker mit Leptoprosopie ヲ指シ、薩摩型ハ Eurysoma- matiker mit Euryprosopie ヲ云ハントスルモノデア

ル。(第7表ニ氏ニ依ル計測表ヲ示ス)

ソノ後ニ於テ岡本氏ハ日本人體質型ニモ Sigaud ノ分類ガ大體適用セラレルコトヲ説キ、角田氏ガ北陸人壯丁ニ就テソノ成績ヲ述ベテ居ル。ソノ結果ヲ注視スルニ、富山縣壯丁5239名ニ關スル Sigaud ニ依ル體質純型ノ分布ハ呼吸型25.5%、筋型50.3%、消化型3.3%、腦型6.6%トナツテ居ル。若シモ Sigaud ガソノ消化型ニ關スル説明ノ中ニ、顔面、胸廓ニ關スル特徴ヲ主トシ、脂肪太リヲ從トシテ居ルコトヲソノ儘トレバソノ消化型ト云フモノ必ズシモ Kretschmer ノ肥滿型ト一致スルモノデナイ。ガ今日一般ニ歐米人ニ於テ略々兩型ハ同一視セラレテ居ル様ニ、日本人ニ就テモノコトガ適用セラレルトスレバ、吾々が上ニ知ツタ様ニ甚ダ尠イ例ニシカ消化型ヲ見出シ得ナイ。然ルニ余等ノ得タ4.3%ト云フ數字ト角田氏ノ3.3%ハ甚ダ近似シテ居ルカラシテ、同氏モ恐ラク Sigaud ノ消化型ハ大體 Kretschmer ノ肥滿型ニ該當スルモノトシテ解釋ヲ下シタラウト思ハレル。尙筋型ガ宛モ呼吸型ノ2倍ニ上ツテ居ルコトヲ見ルモ、余等ノ云ハントスル所ノ廣身型ガ狭身型ノ略々2倍ナルコトニ一致シ、命名、及ビ細密ナル意義ニ就テ相違ヲ見出シコトスレ、日本人體型ノ分布率ニ

關スル結果ハ略々同一ナルモノガアルコトガ知ラレテ、興味ガ深い。

第 7 表 ベルツ氏ニヨル日本人兩型ノ計測數

		長洲型 Leptosome	薩摩型 Eurysome			長州型 Leptosome	薩摩型 Eurysome
1. 身	長	1620	1619	14. 肩幅對身長 (%)		23.5	24.8
2. 坐	高	547	547	15. 腰幅對身長 (%)		16.3	17.2
3. 脚	長	804	812	16. 胸圍對身長 (%)		47.4	52.4
4. 肩	幅	381	402	17. 頭圍對身長 (%)		33.6	34.4
5. 腰	幅	264	279	18. 頭最大長對身長 (%)		11.7	11.6
6. 胸	圍	768	852	19. 頭最大幅對身長 (%)		9.0	9.3
7. 頭	圍	545	558	20. 顴骨弓幅對身長 (%)		8.1	8.6
8. 頭 最 大 長		191	189	21. 長 サ 幅 指 數		76.3	79.1
9. 頭 最 大 幅		146	150	22. 顔 面 指 數		93.2	80.1
10. 顴 骨 弓 幅		132	141	23. 體 重 (匁)		49	62
11. 下 顴 角 幅		106	112	24. Pignet 指 數		36.2	14.7
12. 形態學的顔面高		123	123	25. 充 實 指 數		1.15	1.46
13. 脚長對身長 (%)		49.6	50.4	26. 年 齡		22	34

日本人體型ニ關スル研究ハソノ他ニ三田谷氏、長谷川氏等ノ夫ヲ見出スコトガ出來ルガ、本報告トハ直接ノ關係ヲ見出シ得ナイ。本研究ノ進行ニ伴ツテ觸レル機會ガ生ズルデアラウ。

第五節 體質研究上今後ノ一般方針

之ヲ要スルニ、若シ體質ヲ定ム可キ最モ良キ「テスト」トシテ體型ナルモノガ認メラレルトスレバ、ソノ體型トシテハ身長ニ對スル幅及ビ厚サノ關係ニ於テ分類セラレタモノヲ以テ最モ基本的ノモノトナス可キデアル。之ト刺戟ニ對スル反應性ヤ作業能力トノ間ニ何等カノ相關ガ認メラレナイカタ丹念ニ檢討スルコトヲ要スル。ソノ上デ之ヲ綜合シテ反應性質ノ或ル特殊性ガ認メラレタ時ニ體型ヲソノ良キ「テスト」トスル體質ト云フモノガ存スルコトヲ知ルニ至ルノデアル。言換ヘルナラバ體質型ノ存在ガ確實ニナルノデアル。併シ或ハ研究ノ結果ガ尠クモ體型トハ別個ノ「テスト」ヲ定メタ方が便宜ガ良イト云フコトニナルカモ測リ難イ。斯様ニ體型トハ別個ノ「テスト」ノ表ハレルコトヲ要求スル體質ガ存スルモノカ如何カ、或ハ矢張り體型ニ依ツテ幾許カノ體質ヲ分類シ得ルモノデアルカ、ソノ解決コソ今後ノ研究ニ專ラ俟タネバナラナイノデアル。尙一般基本體型ト云フモノカラ觀レバ顔面型ノ如キ僅カニソノ一部ニ過ギナイガ、從來多數ノ人ノ經驗、觀察ニ依ツテ何等カ意義ノ豫想セラレルモノガアルトスレバ、上ニ述ベタ如ク三ツノ基本型ニ三ツノ顔面型ヲ組合セテ九ツノ目ニ立チ易イ體型ヲ分類シテ、夫ト反應性質乃至作業能力ガ如何ナル關係ニアルカヲ更メテ検討シテモ宜シイ。

最後ノ表ハ今後余等ガ如上體型ト生體一般ノ反應型トノ關係ヲ究メントスルニ當ツテ體型ニ關スル最モ緊要ナ測定種目及ビ參考項目ヲ適當配列シタモノデアアル。

如上ノ體型ノ計測的分類法ノ甚ダ遺憾トスル點ガーツアル。夫ハ吾々ガ筋肉ノ發育ノ特ニ佳良デ隆々トシテ逞シキ例ニ遭遇シタ場合ニ之ヲ別ノ1體型ト見ナサナケレバナラナイコトヲ誰シモ感ズルデアラウガ、斯ル例ヲ捕捉シ難イト云フ點ニ存スル。言葉ヲ換ヘルナラバ、上述ノ如キ體質指數ニ依ル分チ方ハ主トシテ骨格ノ鈞合ト、脂肪褥ノ之ガ修飾ノ状態ヲ最モ良ク表ハスモ、筋肉ノ發育ニハ多ク關シナイ様ニ見受ケラレルノデアアル。筋肉ノ一般發育状態ヲ體質指數ノ中ニ包括セシメル、又ハ形態學ニ客觀的ニ示スト云フコトハ仲々至難ナ事柄デアアル。Schittenhelmノ教室ニ於テSchlomkaノ之ニ關スル發表ガ存シ、又本邦ニ於テハ保利氏ノ研究ガ存スルガ、ソノ價值ニ就テハ著者ノ未ダ經驗シナイ所デアアルカラ批判ヲ下ス可キ何等ノ根據ヲモ今日有シナイ。而モ骨格ノ發育、脂肪ノ蓄積ト異リ、先天的ニ體質ニ依ルモノ、外ニ筋肉ノ發育ハ特ニ練磨ニ依リ、或ハ肥滿質ニ、或ハ狹身型ノモノニモ容易ニ佳良ナルコトヲ得ルノデ、上記ノ如ク純粹ニ形態的ニ又ハ身體ノ充實度カラ見タ體型分類中ニハ現在ノ所加ヘナイコトニシタ。即チ參考トシテ筋肉ノhypertonisch, normotonisch, hypotonischヲ別ニ記載スル必要ヲ認メタノデアツテ、若シ適當ナ筋肉發育並ニ緊張度計測ノ方法ヲ認メタナラバ、之ニ依ツテ更ニ詳シク記載ニ止メンコトハ希マシイコトデアアル。而シテSigaudノ所謂musculärer Typus, Kretschmerノathletischer Typusト云フガ如キ體質ハ今後ノ研究ニ俟ツテ取捨セラレルデアラウ。

第8表ニ於テ余等ノ主張ニ從フ分類法ヲ試メントスルニ當リ、同時ニ先進諸家ノ諸分類中Sigaudノ夫ヲ書加ヘタノモ斯ル點ヲ顧慮シテ將來ノ參考ニ資セントスル用意ニ外ナラナイ。

結 論

1. 體型ノ分類ハ吾日本人ニ於テモ之ヲ肥滿型、廣身型、狹身型トナスコトヲ妥當ト認メル。
2. 以上夫々ノ型ニ特ニ定マツタ觀相學的ノ顔面ノ特徴ト云フモノハ認メラレナイ。
3. 今後體型ト體質トノ關係ヲ論ゼントスルニ當ツテ、上述3型ヲ以テ體型ノ基本的ナルモノトスル。從來ノ例ヘバ卒中質、纖弱質ト云ツタ様ナ體質型ガ果シテ意義アルモノカ否カヲ知ルニハ此基本體型ニ顔面型ヲ組合シテ考察スル必要ガアラウ。
4. 吾日本人ニ於テハ肥滿型ハ全例ノ3—4%ノ僅カニシカ該當セズ、爾餘ノ3分ノ2ハ廣身型ニ、残り3分ノ1ガ_{瘦弱}型ニ屬スル。

稿ヲ終ルニ臨ミ、恩師大里教授ノ御校閲ヲ深謝シ奉ル。又文献ノ涉獵ニ當リ御懇切ナル御示教ヲ賜リタル本學岡本教授ニ厚ク感謝ノ意ヲ表ス。

No. 測定日 昭和 年 月 日

姓名 性別	住所 年齢	職業	父ノ出生地 母ノ出生地
1 身體計測			
身長	cm.	Pignet-Vervaeck 指數 = $\frac{(\text{體重} + \text{胸圍})}{\text{身長}} \times 100$	
體重	kg.	=	
胸圍	cm.	判定. 肥滿型 廣身型 狹身型	
顴骨弓巾	cm.	形態的顔面指數 = $\frac{\text{顴骨弓巾}}{\text{顔面高}} \times 100$	
顔面高	cm.	=	
2 骨 格	(粗大. 普通. 纖弱. 最端巨大様)		
3 筋 肉	(hyper-, normo-, hypotonisch.)		
4 脂 肪	(肥滿. 普通. 羸瘦)		
5 畸 形	脊柱. 胸廓異常ニ注意セヨ. ()		
6 Sigaud 分類	純型ノミヲ記載ス. (腦型. 呼吸型. 筋型. 消化型)		
検査項目及成績.			

備考.	身長	男子 145cm	女子 140cm	以下矮小
		男子 170cm	女子 160cm	以上巨大
	基本體型	肥滿型	體質指數	92.3 以上
		廣身型		82-92.2
		狹身型		74-81.9
	顔面型	Euryprosop	顔面指數	84以下
		Mesoprosop		84-88
		Leptoprosop		88以上

文 獻

- 1) Aschner, Die Konstitution der Frau und ihre Beziehungen zur Geburtshilfe u. Gynaekologie.
- 2) Baelz, Mitteil. der deutsch. Gesells. f. Natur- u. Völkerkunde Ostasiens, Bd. 4, H. 32, 1885.
- 3) Bauer, Vorlesungen über allgemime Konstitutions- und Vererbungslehre, Auflage 2, 1923.
- 4) Bauer, Deutsch. Arch. f. Klin. Med., Bd. 126, 196, 1918.
- 5) Brugsch, Allgemeine Prognostik, 1918.
- 6) Brugsch u. Levy, Die Biologie der Person, Bd. 2, 1931.
- 7) Einhorn, Z. f. Konstitutionslehre, Bd. 16, S. 18, 1932.
- 8) Hauchmann, Z. f. Konstitutionslehre, Bd. 14, S. 679, 1929.
- 9) Kretschmer, Körperbau und Charakter, Aufl. 5-6, 1926.
- 10) Martin, Lehrbuch der Anthropologie, Aufl. 2, Bd. 1, 1928.
- 11) Matsumura, J. of the Faculty of Science. Imperial University of Tokyo. Vol. I, 1926.
- 12) Müller, Z. f. Konstitutionslehre, Bd. 16, S. 8, 1930.
- 13) Rhoden u. Gründler, Z. f. ges. Neurologie u. Psychiatrie, Bd. 95, S. 37, 1925.
- 14) Rautmann, Z. f. Konstitutionslehre, Bd. 13, 1928.
- 15) Schlomka, Z. f. Konstitutionslehre, Bd. 14, S. 371, 1929.
- 16) Weidenreich, Rasse und Körperbau. 1927.

- 17) 稻田龍吉, 編纂, 疾病治療と體質. 18) 大山稻三郎, 愛知醫學會雜誌, 第30卷, 大正12年, 第33卷, 大正15年. 19) 岡本規矩男, 體育解剖十講, 昭和2年. 學校衛生研究資料, 昭和2年.
- 20) 角田眞一, 十全會雜誌, 第36卷, 昭和6年. 21) 丹治善藏, 保險醫學雜誌, 第99號, 大正10年. 22) 高田他家雄, 保險醫學雜誌, 第20卷, 第4號. 23) 竹內茂代, 東京醫學會雜誌, 第46卷, 第12號, 昭和7年. 24) 長谷川卯三郎, 東京醫學會雜誌, 第39卷, 第8號, 大正15年.
- 25) 長谷部言人, 東北醫學會雜誌, 第2卷, 大正6年. 26) 保利富雄, 日新醫學, 第21卷, 第1411頁. 27) 三田谷啓, 大阪醫學會雜誌, 第20卷, 大正10年.